

# J R 総連通信

2022年12月12日 No.1607

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連） <http://www.jr-souren.com>

## 連合「第89回中央委員会」で熊谷書記長発言する！

12月1日に開催された、連合「第89回中央委員会」にJR総連を代表して熊谷書記長が出席し、2023春闘にむけた連合の課題などについて発言しました！

### ～熊谷書記長発言文～

JR総連の熊谷です。連合の闘争方針として、暮らしをまもり、未来をつくる。「未来づくり」春闘が打ち出されました。JR総連も安心して暮らせる社会と、組合員の生活向上に向けて2023春闘を闘っていく決意です。

しかし、連合の春闘生活闘争中央討論集会でも発言しましたが、物価は、連合が5%要求を決定したときは2.6%、その後10月28日に日銀が示した物価見通しは2.9%、そして今はもう消費者物価は、3.6%までに上がりました。組合員の生活は、この物価の上昇により大変な思いをしているのが実態です。

組合員からは「生活が大変だ」「実質は賃下げだ」というと悲痛な声が多く上がっています。しかし同時に、今2023春闘に期待する声がさらに大きくなっている状況です。今こそ連合運動の真価が問われているときはありません。そのためにも春闘の原点に立ち返り、連合の旗のもとに加盟産別が結集し、統一要求・統一闘争を追求していくことが求められています。連合として、団結を強化して、この厳しい状況を何としても乗り越えるために、先頭となって指導していただきたいと思います。

しかし、物価上昇の多くはエネルギー問題でもあります。岸田政権はこのエネルギー不足を理由として原発推進へと舵を切りました。福島第一原発事故は労働者の生活を奪いました。それが原発の事実です。連合としてこの原点に立ち返って、原発推進へと舵を切った岸田政権に対して様々な場で社会的に提言をお願いします。

また、このような困難な状況の中、岸田政権は防衛費をGDP比2%に倍増しようとしています。防衛費の財源確保には有識者が示しているように増税は避けられませんが、同時に社会保障のさらなる切り下げによって、労働者の生活がさらに追い込まれることは、歴史が証明しています。

JR総連は軍拡には反対です。これからも憲法9条を守り、平和な社会を実現するために、そして労働者の生活を守るために運動を進めていきますので、連合としてのご指導と、政府に対しての提言をお願いします。

最後に、今春闘は未来を決する春闘です。しかし、組合員からは連合の芳野会長に対して多くの疑問の声が上がっています。

連合の芳野会長が麻生副総裁をはじめさまざまな自民党議員と会合していたことや、連合の旗開きでは、野党代表もいるなかで、岸田首相にだけ挨拶をさせたこと。さらに国民の60%以上が反対にもかかわらず国葬に参加したことなど、「連合はどこに向かっているのか」と組合員からは多くの疑問が投げかけられ、JR総連へ見解が求められています。

労働者が総団結し、何としてもこの危機を乗り越えていかなければいけない時です。だからこそ、自公政権にとってかわる政治体制をつくらなければなりません。そのためにも野党共闘をしっかりとつくり上げていくことです。芳野会長のリーダーシップを発揮していただきたいと思います。

2023春闘においても、労働者のナショナルセンターである連合が、さらに旗振り役となって労働運動を進めていただくことをお願いして発言とします。